

質問	仁壁神社の「仁壁」の由来はなにか。
回答	もとは「仁戸(にへ)宮」といった。仁壁と書いてニへと読み、神にささげる贄から来ている、という説がある。 『防長地名淵鑑』(Y291ミオ)に「仁戸は贄の仮借にて、仁戸田は神社の献穀田を云ふ。此は往古吉敷郡宮野村桜島鎮座仁壁神社の御料田にて…」「建久六年九月宮野庄立券仁戸宮と見え」「近藤芳樹戸は壁の省画なりとし、近藤清石は此説を否定し「省画ならば戸と書くべきなり。按るに文字は仁壁なれど訓はニへなりしならん、ニへの名義本社所蔵に毛利輝元卿の民安き秋のまもりや稲の宮との発句の短冊あるを以て思へばニへにつくる稲を守らせ給ふ神にてニへと名を負ひたまへるにぞあるべき。(ニへは多く魚にことよりたる名なれど、万葉集に鴉鳥の葛飾早稲をにへすともよめり。輝元卿の時代には本社をイネノ宮と唱へたるが、或は散木集ににへのはつ刈あさにするなどよめれば、稲の宮とあるニヘノミヤともよむべし。輝元卿の稲の宮と書きたまへるは文字こそあれ、よみはイネノミヤにあらでニヘノミヤなるかも知られず)果して然らばいつの頃より通俗には文字のままに仁壁とよむこととなりけん」と云へり。」とある。 『山口縣風土誌』(Y291ヤマ)第7巻の吉敷郡宮野村に、仁壁神社の項目があり、「古くはニへと云へるならん」「さるは建久六年の宮野庄勅裁立券に、仁壁神社見えずして仁戸宮あり、仁戸宮則本社なるべし」とある。
回答のプロセス	
資料	『山口歴史地名大系 36』(R291ニホ) 近藤清石『山口縣風土誌 第7巻』(Y291ヤマ) 御園生翁甫『防長地名淵鑑』(Y291ミオ) 『角川日本地名大辞典35 山口県』(Y291カト)
備考	